巻頭特集　作品を彩る、地元の名所

ロケ誘致をめざす よっかいち フィルムコミッション

四日市港や、旧平田家住宅、「四日市あすなろう鉄道」など、四日市には口ケ地に適した場所が多くあります。

ロケ地データを収集、紹介して撮影を誘致するのが、よっかいちフィルムコミッションです。

撮影をきっかけとして地域活性化をめざし、努力を続けています。

フィルムコミッションとは、撮影場所の誘致や撮影支援を行う非営利組織。観光客誘致や地域活性化を目的としており、県内11カ所にあります。

四日市では以前、各地の管理者が制作者からの問い合わせに対応。許認可手続きや、撮影に関するさまざまな調整を実施していました。よっかいちフィルムコミッションは、制作者とのやり取りを一括管理し、さらにロケ誘致を行うため、2012年に設立。2018年度には、映画・ドラマ・CM・スチール撮影各2件、テレビ番組33件、プロモーションビデオ5件の計46件を誘致しています。

ていねいな対応で リピーターを呼び込む

よっかいちフィルムコミッションは、四日市市役所と四日市観光協会、四日市商工会議所が連携して運営。各所の担当者1人ずつが集まり、すべての依頼に対応します。「とにかく早いレスポンスを心がけています」と話すのは、四日市市シティプロモーション部観光交流課企画係の渡辺さやかさん。

映画やドラマの撮影では、企画書と合わせて脚本の一部が制作者から送られる場合が多いそうです。そこからイメージを膨らませ、シーンに合うロケ地を提案します。ロケ地の提案に必要なのは、シーンに適した風景だけではありません。撮影がスムーズに進むよう、通行人や交通量が多い場所を避ける必要もあります。撮影期間が長く、複数の場所を利用する場合は、宿泊施設の有無やロケ地間の移動距離の確認も重要です。

制作者のほとんどが複数のフィルムコミッションに問い合わせて、ロケ地を選定。各地からの提案を比較し、ロケ地を決定します。よっかいちフィルムコミッションは、希望通りの場所が見つからない場合でも、類似した場所を複数紹介。もし誘致を逃しても、別作品の撮影で候補地として想起してもらいやすくなります。四日市観光協会の観光コーディネーター・落合純二さんは、「常にプラスアルファの提案をするようにしています」と話します。

素早い対応と高い提案力を支えるのは、地道な情報収集です。ウェブサイトでおすすめ風景の募集をしているものの、一番多いのは口コミだといいます。個人の所有者から登録許可が下りると、すぐにデータベース用の写真を撮影に向かいます。

ロケ地提案のほか、下見の案内や宿泊地・弁当宅配業者の紹介、撮影の立ち合いなど、業務内容は多岐に渡ります。「差し入れでは地元名物の『なが餅』が特に喜ばれます。演者さんに気に入ってもらえて、SNSに載せていただけたら、宣伝にもなります」と落合さん。細やかな対応のおかげで、近年はリピーターも増えてきているそうです。

四日市商工会議所
商工振興部 商工振興課
林 優野さん

四日市市シティプロモーション部
観光交流課 企画係
渡辺 さやかさん

四日市観光協会
観光コーディネーター
落合 純二さん

海星高等学校でのテレビCM撮影では、カメラを水平に移動させるカメラドリーが使用されました。海星高等学校は、『寄生獣』の撮影にも利用されています

四日市の名所を ロケ地として活用

大きなガントリークレーンや倉庫群、一直線の臨港道路を擁し、今年120周年を迎える四日市港。夜間には隣接するコンビナート群のライトがこうこうと輝き、多彩なライトに染まった伊勢湾の水面が風に揺らめきます。陸、海、展望台など見る場所によって、姿を変えるのも特徴。幻想的な風景は「工場夜景の聖地」として全国から注目され、『ゴジラVSメカゴジラ』『寄生獣』などの映画にも登場します。

四日市港以外にも、四日市には映画やCM、プロモーションビデオの撮影に適した場所が多くあります。明治から大正の屋敷構えを残した国登録有形文化財の旧平田家住宅（目黒陶芸館別館）をはじめ、日本でも数少ない特殊狭軌（ナローゲージ）路線である「四日市あすなろう鉄道」、東海道四日市宿を再現した四日市市立博物館の時空街道など、魅力的なロケ地を制作者に紹介しているのが、よっかいちフィルムコミッションです。

観光客増加だけでなく 誘致を地域交流のきっかけに

ロケ誘致の効果でよく挙げられるのは観光客増加ですが、よっかいちフィルムコミッションでは、そのほかの利点にも注目しています。

2017年公開の『サクラダリセット』では、メリノール女子学院（現四日市メリノール学院）がメーンロケ地となりました。演劇部・美術部は一部の舞台セット制作に参加。約200人の生徒や教師、卒業生がエキストラとして出演しています。平日にも撮影を実施したため、スタッフと生徒の交流が増えたそうです。撮影終了後、学校からは「制作者の仕事を間近で見られる、キャリア教育のいい機会になった」との感想が寄せられました。

撮影では、ロケ地の管理者やエキストラだけでなく、炊き出しや掃除、裏方のボランティアとしても地域住民が活躍します。「住民同士のつながりが生まれるきっかけになれば」と四日市商工会議所商工振興部商工振興課の林優野さんは話します。

我がまちの馴染みある風景が、作品のロケ地に――。ストーリーや音楽が加わることで新たな魅力に気づくきっかけとなることでしょう。「撮影を機に、もっと地域を好きになってもらいたいです」と渡辺さん。「今後は撮影誘致後の情報発信にも力を入れていきたい」と意気込みます。

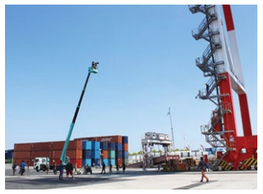
必見スポット！

作品を彩る、地元の名所

Location

四日市港

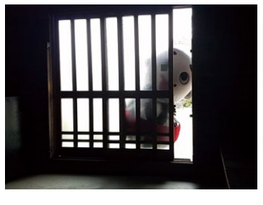
四日市港にある一直線の臨港道路は、アクションシーンの撮影に多く利用されます。夜は輝くコンビナート群が、映画やドラマの制作者を魅了する絶景ポイントです



Location

旧平田家住宅

旧平田家住宅は、2018年公開の『来る』のロケ地になりました。国登録有形文化財のため、畳の上にシートを敷くなど、普段以上に注意を払って撮影を実施したそうです



INFORMATION

よっかいちフィルムコミッション

［ところ］四日市市安島1-1-56
［電話］059-357-0382
［ウェブサイト］yokkaichi-fc.jp

文／田中波香　写真／川村浩之　写真提供／よっかいちフィルムコミッション　デザイン／chica